

アイヌ生活文化再現マニュアル

トンコリ

【五弦琴】

発刊にあたって

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構は、平成9年7月の創設以来、アイヌ文化の振興、アイヌの伝統やアイヌ文化に関する知識の普及と啓発、アイヌ文化等に関する研究の推進や助成などの各種事業を実施しております。

そうした事業の一環である「アイヌ生活文化再現マニュアル作成事業」は、アイヌの伝統文化を、映像や音声、文字などによって記録し、アイヌの人々をはじめとして、広く一般の人々や研究者の利用に供することにより、アイヌ文化の伝承・保存を図ることを目的としています。

本マニュアルがより多くの人々の利用に供され、アイヌ文化の振興が推進されるとともに、我が国の多様な文化の一層の発展が図られれば幸いです。

目 次

はじめに	7
トンコリ	8
トンコリをつくる.....	11
材料	13
道具	15
本体をつくる	17
本体下部をつくる	18
糸巻きをつくる	34
響版	40
各部材をつくる	45
駒	45
根緒	47
・5本の弦を通して等間隔に広げる部品・弦をまとめて止める部材	47
・毛皮	49
弦をつくる	50
繊維をとる	50
撚る	50
弦を張る	53
完成	58

おわりに	59
参考文献	60
トンコリを展示・収蔵している施設	61

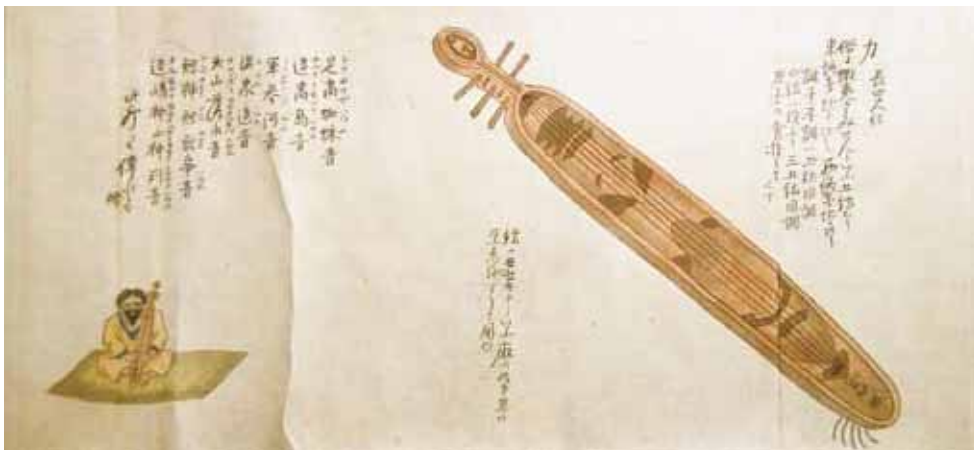
— 凡 例 —

- ・映像編で入れることのできなかつた解説等も記しました。したがって、文言等で映像編と異なる個所があります。

はじめに

トンコリとは、アイヌの人たちが使用してきた弦楽器です。3本から5本の弦が張られています。特に5弦のものが多いことから「五弦琴」と呼ばれます。

江戸時代の早い時期に北海道のアイヌの人たちも使っていたという記録がありますが、一般的には、樺太アイヌの人たちの楽器として知られています。



トンコリと演奏する様子【蝦夷島奇観】

トンコリは気の向いたとき、楽しみのために弾いていました。ひとりで楽しんだり子供を寝かせるときに、子守唄代わりに聞かせたと言います。またお祝い事などで、大勢の人が集まるとき、唄や踊りの伴奏としても演奏されました。



【北海道あゐの】



【蝦夷風俗絵巻】

上記写真3点とも北海道開拓記念館蔵

トンコリ



トンコリ（北海道開拓記念館蔵）

北海道開拓記念館所蔵のトンコリは、大正時代の製作で、右側のトンコリに一部入っているほか、文様はほとんど入っていません。5本の弦はそれぞれの糸巻きに巻かれていましたが、三味線の弦が使われていたようです。



弦をとりつけた毛皮を釘で本体に止めています。



弦を止めた毛皮は、本体に開けられた穴を通して裏側で止めています。

トンコリは人体（女性）をイメージしているといわれ、各部に人体の名称が付いています。（図1）

トンコリは松材などをくりぬいてつくられ、弦には、植物の繊維や動物の腱を撚ったものを使用しました。大正時代頃には三味線の絹糸が使われていたようです。その他、飾りとして狩猟で獲れた動物の毛皮を使っています。本体の中には、心臓（魂）として、ガラス玉など一つ入れています。

トンコリはもともとは文様が入っていません。明治期から次第に文様を入れるようになりました。

大きさに決まりはありません。弾き手に合わせて決めていたのでしょう。

各部の名称

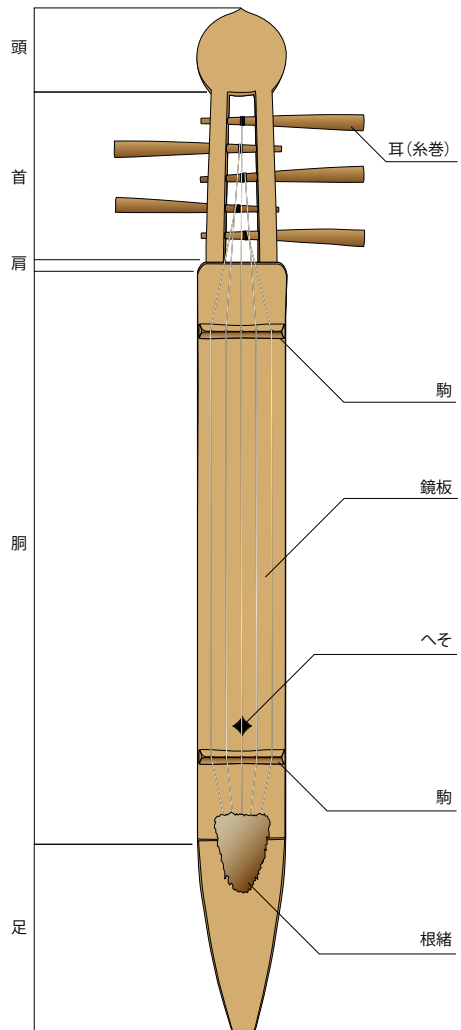


図 1

<作者紹介>

トンコリの製作は浦河町在住の浦川太八さん、弦の製作は浦河町在住の角田チミ子さんです。



製作者

木彫家・ハンター
浦川太八さん
(浦河町在住)



製作者

文化伝承者
角田チミ子さん
(浦河町在住)

トンコリをつくる



写真1



写真2



写真3

トンコリ各部寸法

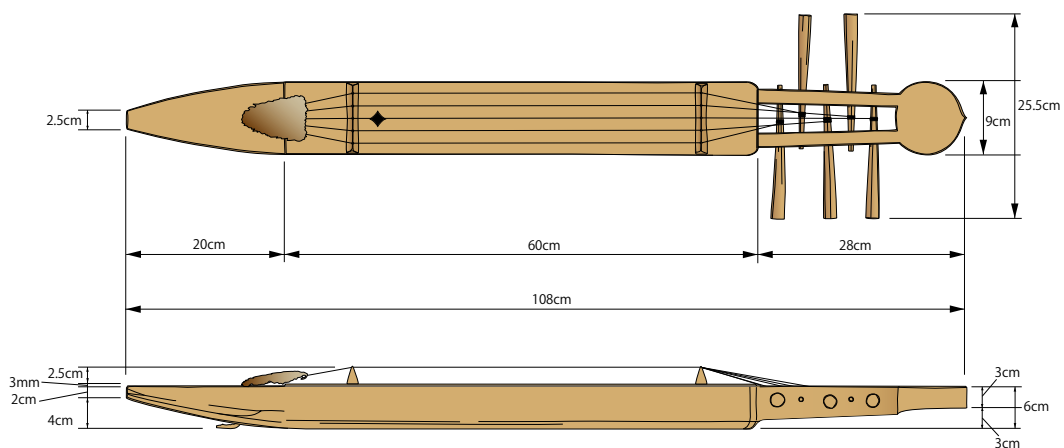


図2

※各部の寸法は浦川太八さんが今回製作したトンコリのものです。(図2)

材料

- ・イチイ (オンコ)

本体分の長さは約1m20cm、直径約25cm。

トンコリ本体と木部の各部品はすべてイチイ (オンコ) を使います。イチイは、しなやかで堅い木です。鉋で割るときなど堅く感じますが、小刀等で削るときはやわらかく加工しやすいのが特徴です。加工後に歪まないよう充分に乾燥させた材料を使います。

今回はイチイを使用しましたが、古くからマツ材が多く使われます。

(写真4、5)



写真4



写真5

- ・アザラシの毛皮 (写真6)

なめしてあります。約7cm×約17cm分を使用します。



写真6

- ・ガラス玉 (写真7)

魂として入れるガラス玉。

直径1.5mm×高さ1.2mmの大きさです。



写真7

- ・ニカワ^{にかわ}(膠) (写真8)
鹿の骨の髄から取るニカワを接着剤として使います。



写真8

※ニカワのつくり方については、『アイヌ生活文化再現マニュアル 「矢筒」』をご参照ください。

- ・ツルウメモドキ
弦にはツルウメモドキを使います (写真9、10)
ツルウメモドキの繊維を撚ってつくった紐はとても丈夫だといいます。



写真9



写真10

道具

道具は加工する場所に応じて使い分けます。(写真11、12、13)

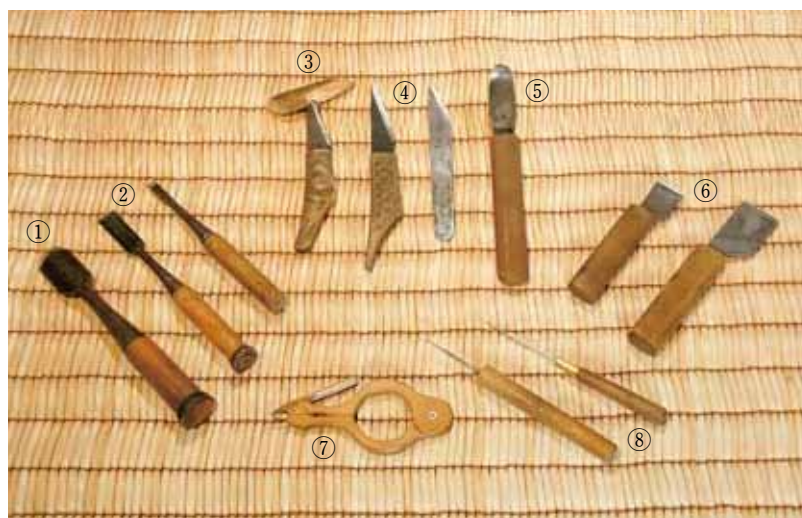


写真11



写真12

- ①丸のみ ②平のみ（2種類）
③イナウケマキリ（イナウ[木幣]をつくる小刀） ④小刀（2種類）
⑤レウケマキリ（刃の先が曲がった小刀）
今回使うレウケマキリは特別に注文してつくったものですが、かつてはマキリ[小刀]を熱し曲げて使ったといわれています。
⑥皮たち（平のみ・二種類） ⑦コンパス ⑧きり（太・細） ⑨金づち
⑩木づち ⑪のこぎり ⑫なた



写真13

- ⑬先を細くした鉄棒（太・細の2種類）
- ⑭火鉗

本体をつくる

本体製作の手順

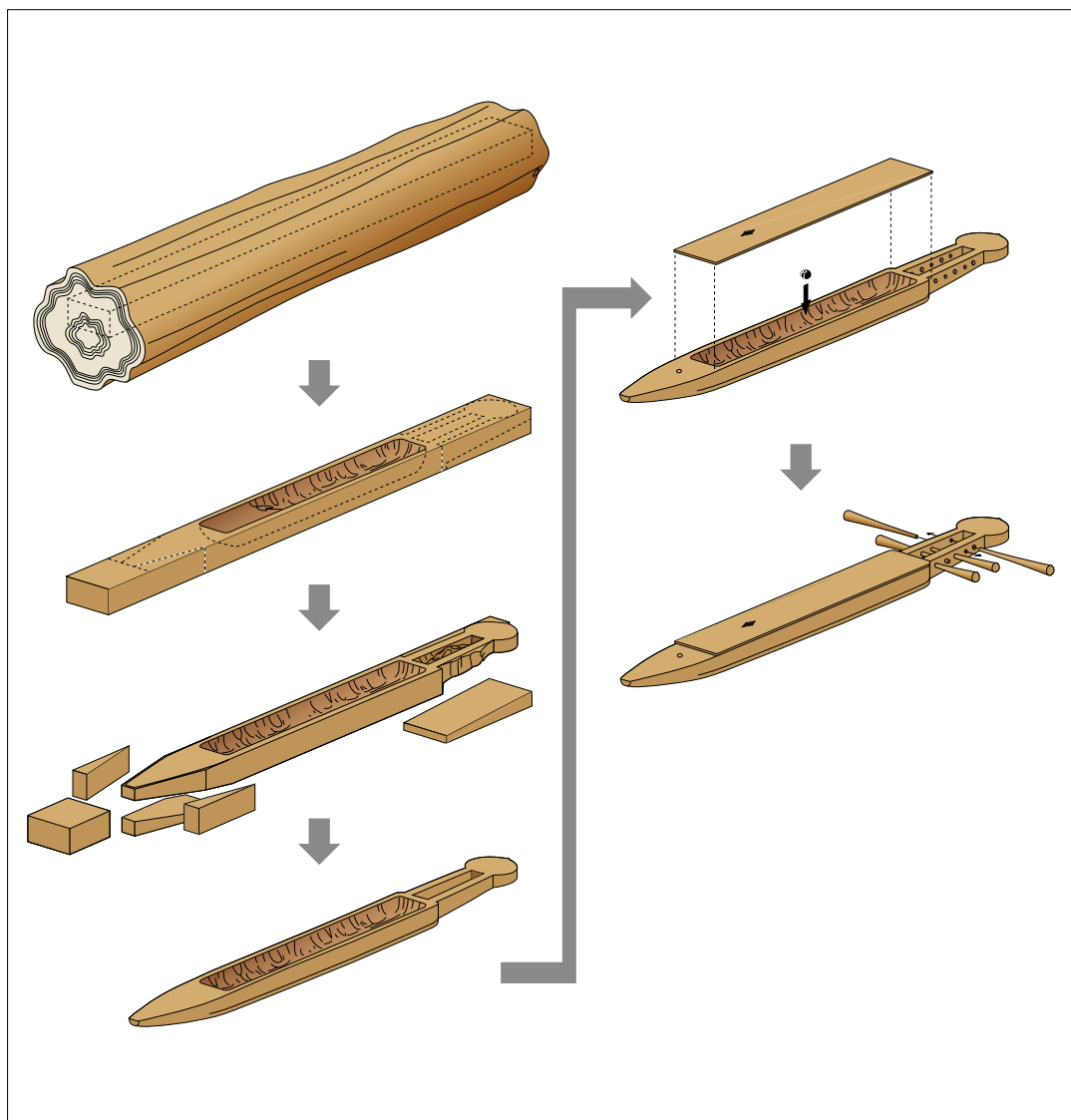


図 3

本体下部をつくる

長さ1m20cmのオンコを切ります。トンコリ本体には木目の芯を避けた部分を使います。電動ノコギリを使い、木口を約9cm×約6cm四方の大きさにします。(写真14、15、16)



写真14



写真15



写真16

材料にトンコリの仕上げの形を描きます。頭の部分はコンパスを使います。(図4)

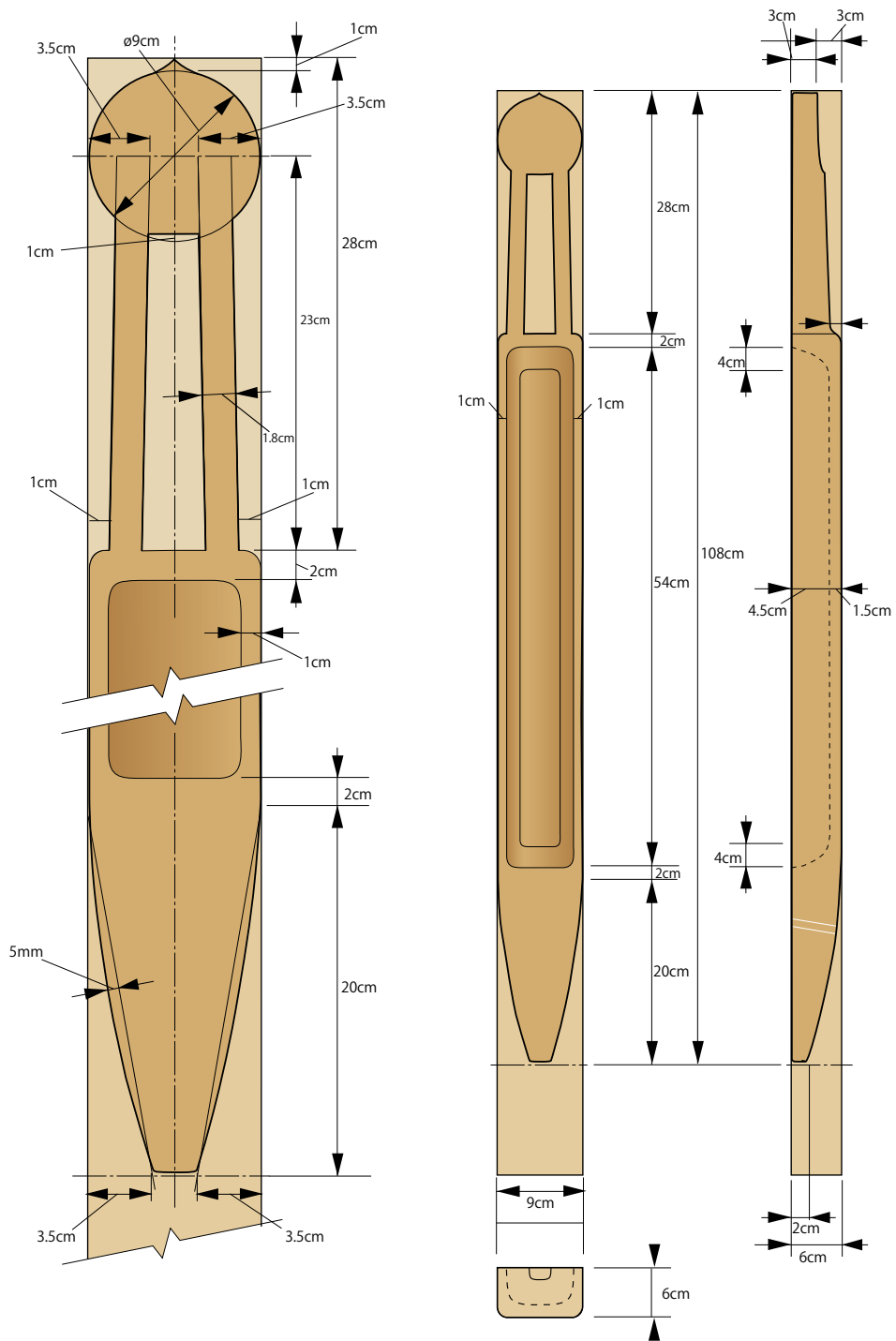


図4

丸のみやレウケマキリを使い、内側を削ります。
丸のみを木づちでたたきながら彫り進めます。一度
に深く削らず、全体の様子を見ながら削ります。
(写真17、18)



写真17



写真18

ある程度削り進めたあと、手で丁寧に削ります。
(写真19)



写真19

レウケマキリは手前に引いて削ります。
のみよりも長く削りとれるので、平滑にするときに使います。(写真20)



写真20

縁の厚さは約1.2cm、底の厚さは約1.5cmにします。
(写真21)



写真21

削った面は削りくずでこすり、滑らかにします。
(写真22)



写真22

本体の内側が削り終わりました。
(写真23、24、25、図4)



写真23



下側 写真24



上側 写真25

内側を削ったあと、トンコリの形に合わせて外側を削ります。のこ、のみ、なたを使います。(図5)

完成時の形と切る場所の図

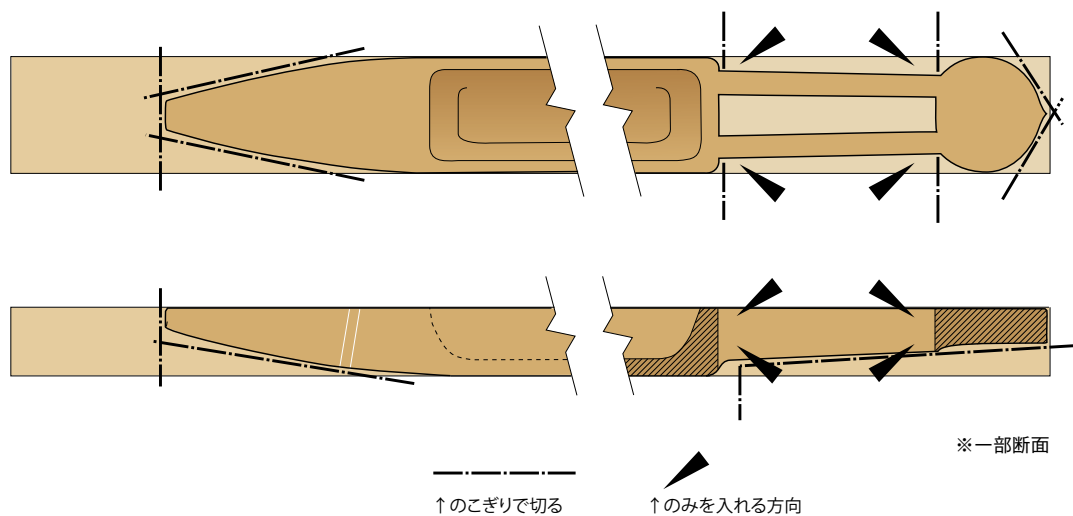


図5

本体下側を形づくりします。
本来の形より大きめに残して切り落とします。
側面、下面の3面を切り落とします。(写真26、27)



写真26



写真27

首から頭の部分も本来の形より一周りか二周り大きいので切り落とします (写真28、29)



写真28



写真29

首の部分は平のみと金づちで、削ります。
丸く削るときは、逆目にならないよう気をつけて
のみの刃を当てます。(写真30、31)



写真30



写真31

首の内側を削ります。のみを使って表裏両側から削り、貫通させて中をくりぬきます。(写真32、33)



写真32



写真33

弦を通す隙間ができました。(写真34、35)



表側 写真34



裏側 写真35

大まかな形に削りました。これから形を整えていきます。(写真36、37)



表側 写真36



裏側 写真37

なた、平のみを使って、外側の形を整えます。
(写真38、39)



写真38



写真39

響板と合わせる部分以外は、面取りします。
(写真40、41、42)



写真40



写真41



写真42

糸巻きを入れる穴の位置を決めます。正面に向かって右側から3本、左側から2本の糸巻きが入ります。(図6)

首に開ける穴の位置

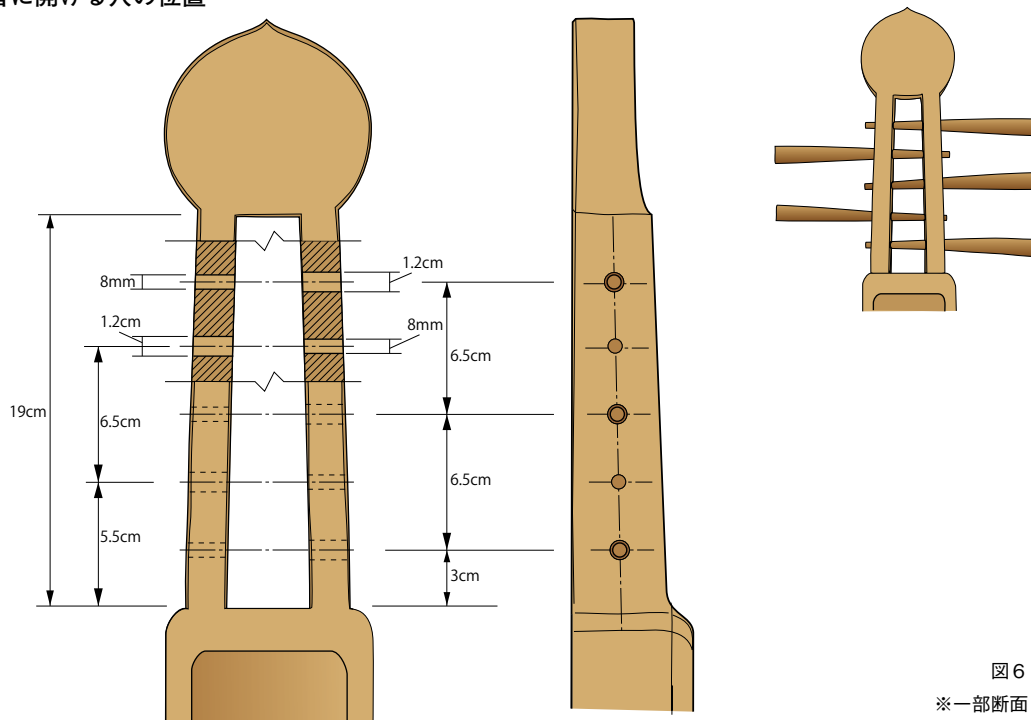


図6
※一部断面

糸巻きを入れる穴をあけます。5本の糸巻きの位置を決めたら、穴を貫通させ、穴を広げます。(写真43、44)



写真43



写真44

穴を広げるのは焼いた鉄の棒を使います。炭で焼いて熱し、木に押し当てます。(写真45)



写真45

最初に細めの棒で上下の材料を貫通させます。(写真46)



写真46

次に太めの鉄棒で穴を広げていきます。(写真47)



写真47

糸巻きを外側から差し込む大きい方の穴の直径は約1.2cm、抜ける小さい方で約9mmです。

(写真48、49)



写真48



写真49

続いて下側の束ねた弦を通す穴をあけます。同じように細い鉄棒で穴を貫き、太めの鉄棒で穴を広げます。穴の直径は約1cmです。

(写真50、51、52)



写真50



表側 写真51



裏側 写真52

首の部分の仕上げは小刀を使って、焦げた部分を削り落として整えます。
(写真53、54)



写真53



写真54

本体下の弦を通す穴の裏側は、穴を中心にのみで四角く溝を彫ります。3cm×1cm、深さ1cmです。(写真55、56、図7)



写真55



写真56

穴の図断面

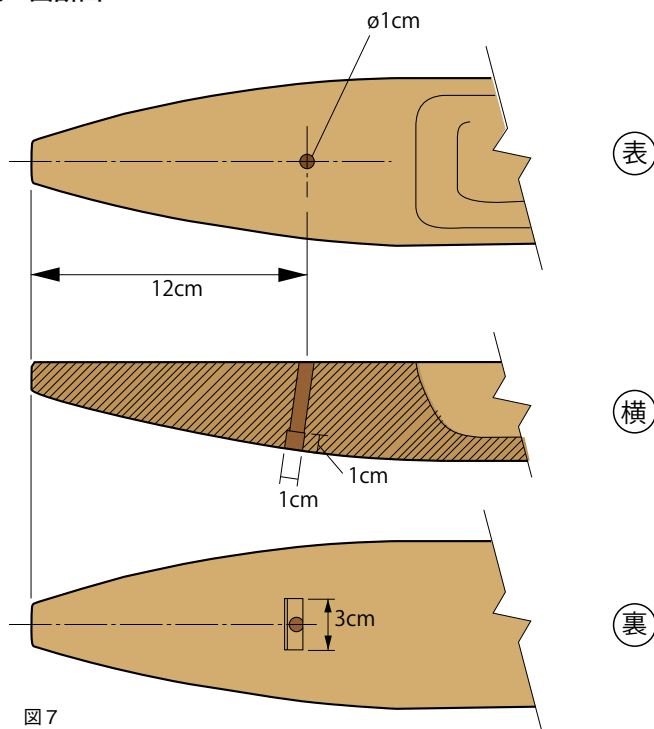


図7

※丸い穴を開ける角度は足側に向けて斜めにつけます。

穴の加工も終わり、本体下の部分が出来上がりました。(写真57、58、59)



写真57



写真58



写真59

糸巻きをつくる

耳にあたる糸巻きをつくります。材料は本体と同じイチイです。直径約20cm×長さ約25cmの丸太を割り、5本分つくります。(写真60、61)



写真60

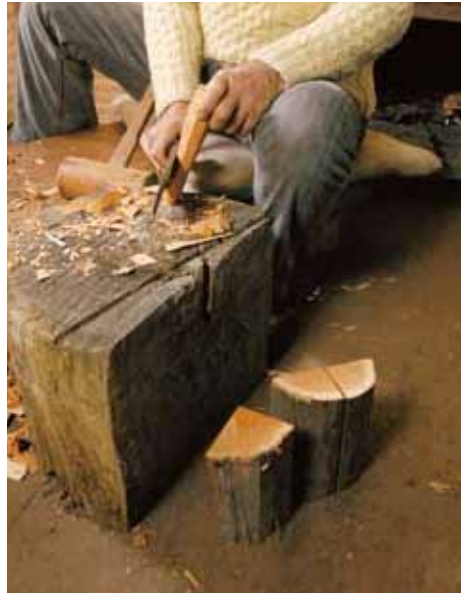


写真61

イナウケマキリや小刀で円錐状に削ります。長さは17cm、太い側は3cm、細い側が1cmです。(写真62、63、図8)



写真62



写真63

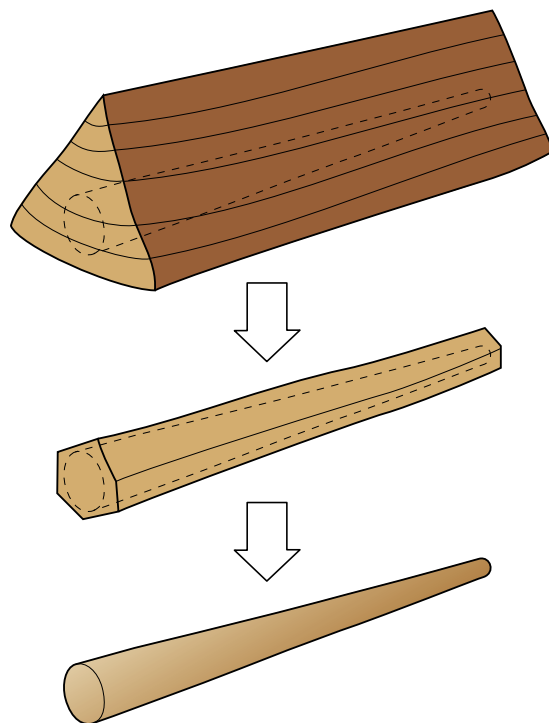
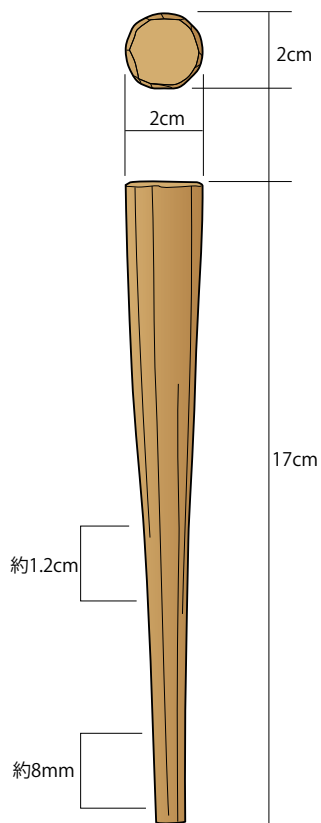


図 8

糸巻きを首に開けた穴に差し入れ、具合を見ます。
きつい場合は少しずつ削り、しっかり締まるように
調整します。(写真 64、65、66)



写真64



写真65



写真66

5本すべてを調整します。(写真67、68、69)



写真67



写真68



写真69

糸巻きに弦を通す穴を開けます。糸巻きの細い部分に穴を開けるため割れないように、最初から錐を使わず、千枚通しをやすりで削って錐の先のように加工したのを使います。

(写真70、71)



写真70



加工した先を拡大

写真71

千枚通しを切りもみして約1mmの穴を開けます。穴の位置は、弦を通す枠内の中央よりやや差し込む太い側に寄せます。(写真72、73)



写真72



写真73

次に錐で穴を広げます。1.5mm程の穴です。(写真74)



写真74

弦を通しやすいように穴の周辺を削って整えます。
(写真75)



写真75

すべての糸巻きに穴が開けられました。(写真76、77)



写真76



写真77

響板

弦を通す穴など、本体下の部分の加工が終わりました。続いて響板の製作です。

電動のこぎりを使って薄く切っています。響板は厚さ3mm×幅9.5cm×長さ60cmで、幅は本体より4～5mm広くしておき、張り合わせた後、削って幅を整えます。(写真78)



写真78

響版は下から12.5cmのところに穴（へそ）を開けます。(写真79)



写真79

小刀を使って削り、開けます。この穴は、中に入れるガラス玉（魂）が飛び出さないようガラス玉よりも小さくつくります。(写真80、81)



写真80



写真81

「魂」といわれるガラス玉を用意します。
首飾りなどで使うための紐を通す穴が開いています。(写真82)



写真82

本体と響版を張り合わせます。接着にはニカワを使います。温めて溶けたニカワを素早く塗ります。
(写真83、84)



写真83



写真84

ガラス玉を本体に入れ、温めたニカワが固まらないうちに素早く響版を乗せて、位置をあわせしっかり押さえます。(写真85、86)



写85



写真86

本体を傷めないよう上下に板を挟み、数カ所紐でしっかりと縛ります。(写真87)



写真87

さらに、数カ所くさびを差し込んで、圧着します。(写真88)



写真88

固定したまま1日おき、ニカワを固めます。(写真89)



写真89

固まったのが確認できたら紐を外して、響版やニカワのはみ出した部分を削り、全体を整えます。
(写真90、91、92、93)



写真90



写真91



写真92

本体完成
本体の完成です。(写真93)



写真93

各部材をつくる

駒

本体と同じ材料で、駒をつくります。なたなどで割り、長さ約15cmの三角柱をつくります。削るとき、握りやすいよう長めにしておきます。(写真94)



写真94

切り出しなどで削り、底辺1.5cm、高さ2.5cmにします。左右の端はなだらかな曲線に削り、面取りをします。

最初は片側を整えます。(写真95)



写真95

底面はアーチ形に削ります。(写真96)



写真96

三角柱の上に刻みを5カ所入れます。これは弦を乗せるところです。(写真97)



写真97

長さ約9cmのところで切ります。響版の幅です。
(写真98)



写真98

駒は2個つくります。(写真99、図9)



写真99

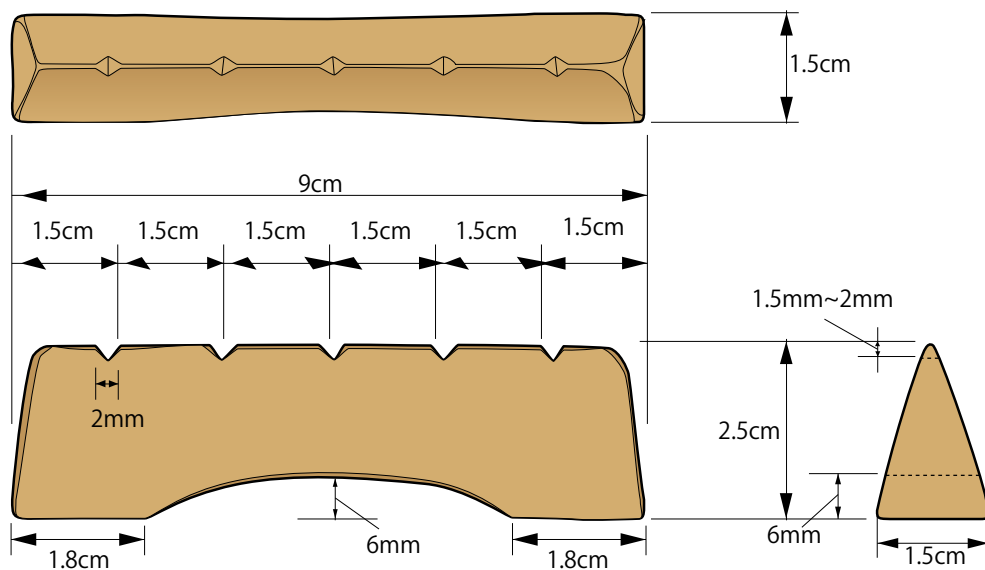


図9

根緒

5本の弦を通し等間隔に広げる部品・弦をまとめて止める部材

5本の弦を等間隔に広げる部材をつくります。材料はオンコです。平のみなどを使って、直径6～7mm、長さ5cmほどの棒にします。錐を使って5つ穴を開けます（写真100）

はじめは小さなきりで穴をあけ、次に大きなきりで穴を広げるようにします。



写真100

同じくオンコで弦の端を束ねて固定する部品をつくります。直径9mmの棒をつくり、端から5～6mmのところから1cm程えぐり、細くして糸巻き状にします。長さは1.9cm弱です。（写真101、図10）



写真101

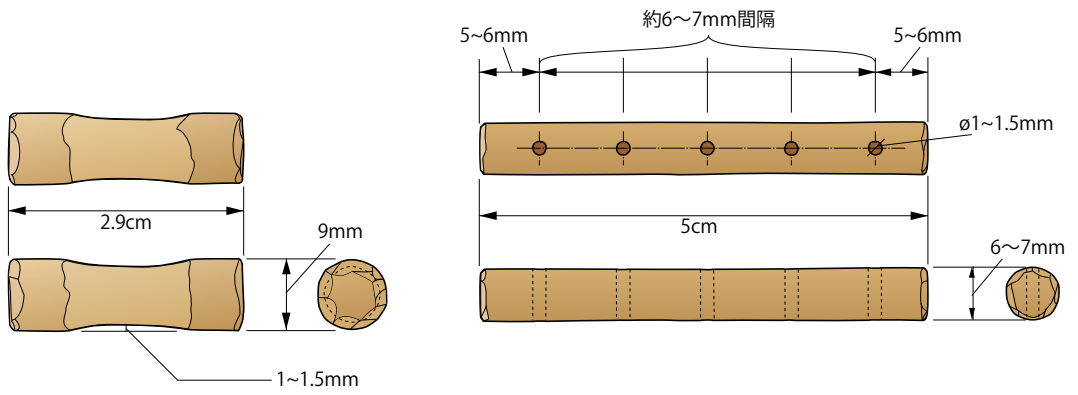


図10

それぞれひとつずつつくります。

(写真102)



写真102

毛皮

本体下部の弦を受ける毛皮を加工します。

長さ17cm×幅7cmの大ききで、毛の向きは、毛が向かう方を細くして、3角形にします。(写真103)



写真103

裏にして切ります。底辺は7～8cmの二等辺三角形に近い形で、内側をえぐるようなカーブを描きます。(写真104)



写真104

幅の広い側に弦を通す部材を当てて、5弦を通す穴にそれぞれ千枚通しを差し入れ、位置を合わせて毛皮に穴を開けます。(写真105)



写真105

弦を受ける毛皮の加工が終わりました。(写真106)



写真106

弦をつくる

繊維をとる

ツルウメモドキを金づちでたたいて繊維をほぐします。(写真107)



写真107

表皮から繊維を外します。(写真108、109)



写真108



写真109

撚る

ツルウメモドキの繊維を撚って弦をつくります。繊維を撚ることをカエカといいます。長さは約1m50cmです。
(写真110)



写真110

上は太い弦を撚る時の繊維の太さ、下は細い弦用です。(写真111)



写真111

繊維を2本（束）左右の手に持ち、それぞれの端を縛り、口にくわえて、左右の指でそれぞれの繊維を撚りながら2本を撚っていきます。

(写真112、113、114)



写真112



写真113

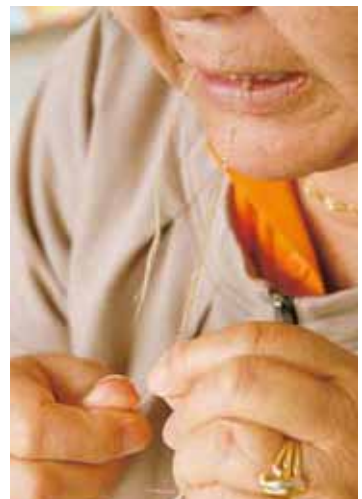


写真114

ツルウメモドキの弦です。細い弦を3本、太い弦を2本用意します。(写真115、116)



写真115



写真116

弦を張る

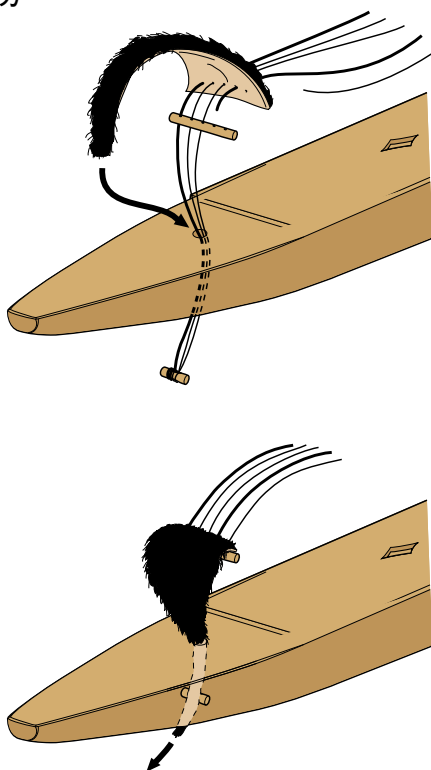
すべての部品がそろいました。弦を張ります。(写真117、図11)



写真117

弦は向かって右から、細・太・細・細・太の順に張ります。

弦の張り方



太細細太細

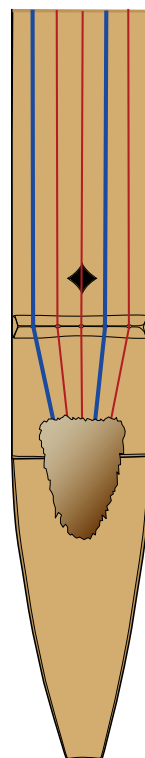


図11

弦を毛皮の穴に表から通し、弦を通す部材にも通します。(写真118、119)



写真118



写真119

通した弦を、本体の下部の穴に通します。端は弦を止める糸巻き状の部材に巻きつけます。

(写真120、121、図12)

弦の止め方(縛り方)

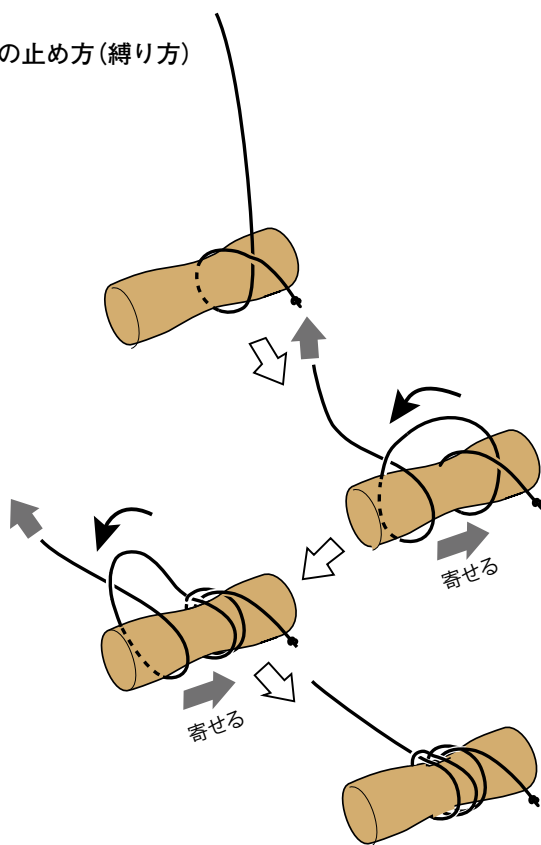


図12



写真120



写真121

同じように5本の弦を通して止めます。(写真122)



写真122

毛皮の細い側も弦に沿わせて穴に通します。弦を糸巻き側に引き、糸巻き状の部材を加工した穴にはめます。(写真123、124、125)



写真123



写真125



写真124

弦の反対側の端を糸巻きの穴に通して巻きます。
弦が糸巻きの下側に巻くようにします。
(写真126、127、図13)



写真126

巻かれる弦と糸巻きの順番 (図13)

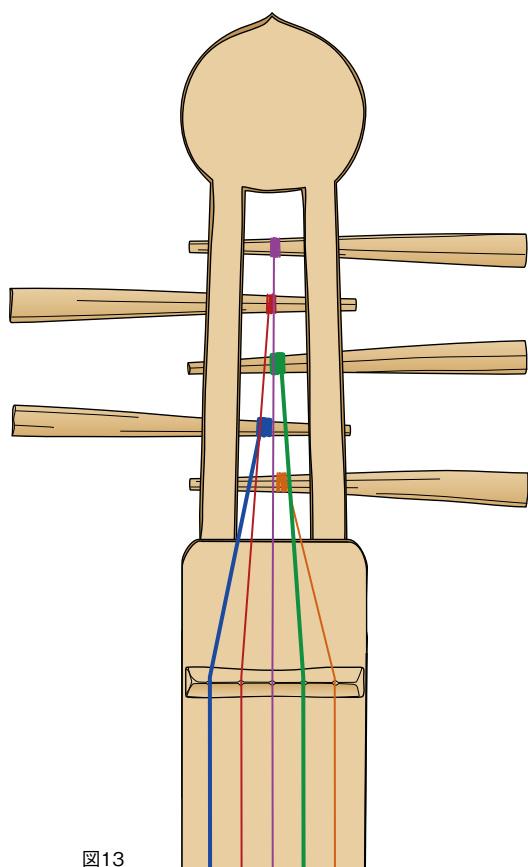


図13



写真127

弦をゆるく張り、弦の下に2つの駒を入れ、5本の溝にそれぞれの弦を乗せます。
(写真128、129、130)



写真128



写真129



写真130

完成



おわりに



かつてトンコリには、不思議な力があると考えられていました。トンコリの音には、いろいろな力があり、上手に弾くとすごい力を発揮しました。病が広まったとき、トンコリを一晩中弾くと病気を振りまくカムイ（神）がその音を嫌ってその村には近寄らないとか、海で嵐にあって、一所懸命トンコリを弾くと嵐が静まったともいいます。

そのような楽器トンコリの音色は、アイヌの人たちの心を癒し、楽しませたことでしょう。

参 考 文 献

参考文献・CD・VHS

文献

●金谷栄二郎・宇田川洋

1986：『樺太アイヌのトンコリ』ところ文庫2 常呂町郷土研究同好会

●北原次郎太

2003：『トンコリの戦後史ー 1945年～1977年を中心に』『社会文化科学研究』7
千葉大学社会科学部研究科

：「トンコリの戦後史2ー 1977年～1998年まで」『ユーラシア言語文化論集』6
千葉大学言語文化論講座

●財団法人アイヌ民族博物館

1996：『樺太アイヌー児玉コレクション』第11回特別展図録 財団法人アイヌ民族博物館

2006：『トンコリを中心とした西平ウメの伝承及びトンコリの総合的研究報告書』
財団法人アイヌ民族博物館

●谷本一之

1958：「アイヌの五弦琴」『北方文化研究報告』13 北海道大学

2000：『アイヌ絵を聴くー変容の民族音楽誌』北海道大学図書刊行会

●千葉伸彦

1996：「長嵐イソのトンコリ」『北海道の文化』68 北海道文化財保護協会

●日本放送協会編

1965：『アイヌ伝統音楽』日本放送出版協会

●富田歌萌

1966：「アイヌの弦楽器“トンコリ”」『北海道の文化』10 北海道文化財保護協会

●萩中美枝・宇田川洋編

1996：『北海道東部に残る樺太アイヌ文化』I 常呂町樺太アイヌ文化保存会

CD・VHS

●関東ウタリ会

2001：『アイヌラマチ（アイヌの魂）からのメッセージ』関東ウタリ会
財団法人アイヌ無形文化伝承保存会（CD）

1987：『～彫る・編む・奏でる～』フチとエカシを訪ねて3
アイヌ文化伝承記録映画ビデオ大全集4
財団法人アイヌ無形文化伝承保存会（VHS）

* トンコリ演奏家OKI氏の伝統的楽曲並びに現代音楽を取り入れた楽曲のCD『KAMUY KOR
NUPURPE』他が販売されています。（CD）

トンコリを展示・収蔵している施設

トンコリを展示、あるいは収蔵している施設をいくつか紹介します。

◎北海道内

- | | |
|---------------------------------|----------------------|
| ●阿寒アイヌコタン | 釧路市阿寒町阿寒湖温泉4丁目7-19 |
| ●旭川市博物館 | 旭川市神楽3条7丁目 |
| ●網走市立郷土博物館 | 網走市桂町1丁目1-3 |
| ●浦河町立郷土博物館 | 浦河郡浦河町西幌別273-1 |
| ●帯広百年記念館 | 帯広市緑ヶ丘2 緑ヶ丘公園内 |
| ●川村カ子トアイヌ記念館 | 旭川市北門町11丁目 |
| ●釧路市立博物館 | 釧路市春湖台1-7 |
| ●財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 | 札幌市中央区北1条西7丁目プレスト1・7 |
| ●財団法人アイヌ民族博物館 | 白老郡白老町若草町2-3-4 |
| ●札幌市アイヌ文化交流センター
「サッポロピリカコタン」 | 札幌市南区小金湯27 |
| ●弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民俗資料館 | 川上郡弟子屈町字屈斜路市街1条通11 |
| ●苫小牧市博物館 | 苫小牧市末広町3-9-7 |
| ●函館市北方民族資料館 | 函館市末広町21-7 |
| ●平取町立二風谷アイヌ文化博物館 | 沙流郡平取町二風谷55 |
| ●北海道開拓記念館 | 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2 |
| ●北海道大学植物園・博物館 | 札幌市中央区北3条西8丁目 |
| ●北海道立北方民族博物館 | 網走市字潮見309-1 |

◎北海道外

- | | |
|--------------|--------------------|
| ●東京国立博物館 | 東京都台東区上野公園13-9 |
| ●東北大学総合学術博物館 | 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3 |
| ●大阪人権博物館 | 大阪府大阪市浪速区浪速西3-6-36 |
| ●国立民族学博物館 | 大阪府吹田市千里万博公園10-1 |
| ●天理大学附属天理参考館 | 奈良県天理市守目堂町250 |

アイヌ生活文化再現マニュアル
トンコリ
【五弦琴】

2012年3月 発行

発行 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

〒060-0001

北海道札幌市中央区北1条西7丁目

プレスト1・7 (5階)

TEL (011) 271-4171 / FAX (011) 271-4181

本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で禁止されていますので、あらかじめ財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構あてに許諾をお求めください。